



嘉祥齋地圖卷十

遠
2568
10-10



遠
2508
10-10

木曾義仲勲功回會後編卷之五

川原合戦望月陣没條

浪速 山珪士信考訂



去程小本曾左馬頭兼伊豫守旭將軍義仲公三百騎の遅兵を卒して五
条原東(油小路)を直違小六条川原を指て押出されし小根井忠親が百五
十騎引及し行合大い悦び進む往ふも楯六郎が十餘騎小行遇
々れ木曾殿益悦び小根井と小根井の辛治小根井と戦死すといふ
小猶存命せしこと嬉しき今只義仲が必死の軍を年来の武勇を顕し
ぬり程敵を悩して戦死せしと仰せし楯六郎承り仰せし更小根井の敵
大手搦手六万余騎身方千騎も足さる小勢小て千小つ勝て死軍あり
いんとこれを強小北合戦を御最期と思断し日來の御澤量小似合せ
つと夫勝敗兵家の常なり且の勝利より始終の勝とすこと何卒此戦
場を切抜上皇至上を虜まりて北國(御啓あり)白好をくみて再兵の勝負

カノ國會合

かくと練められも。義仲頭を去振多の石とよ子君を虜なり北國へ啓
 奮くも疾より行り音如何程もあれども逆中氣運の用くもた身何中々
 小君を困り未代まで名を汚さぬ古人も縋るも死をへた期小死せざれば死小
 勝る耻ありと只速小南東勢小蒐向火出まで戦ひ爛熳く戦没せんこと我
 本懐かれ。此勢の中小妻子成顧身各む後之敵の寄ざる以前小早く落
 上必死の戦場小く見悪敗走。鎌倉武士小嘲られん八返々朽惜くく。仰
 一。楯根井を首末々泛々の者までも異口小人生て維く死を懸まゆべは老
 て死する小兵の耻なり。其息小命成繫だ其息小死する更能へるも亦兵の
 耻たりと々。維く此期小臨し命を各む者のいなり如何なる修羅の街劍の
 山たりとも君の御供を願へうい。大将感悦斜た。進めと
 下知。小早八条河原小白旗を天小翻。田代冠者義茂が五百余騎土
 煙をまき押来る待候。木曾勢徐々と押出。雨の降ごく。矢を射けけ

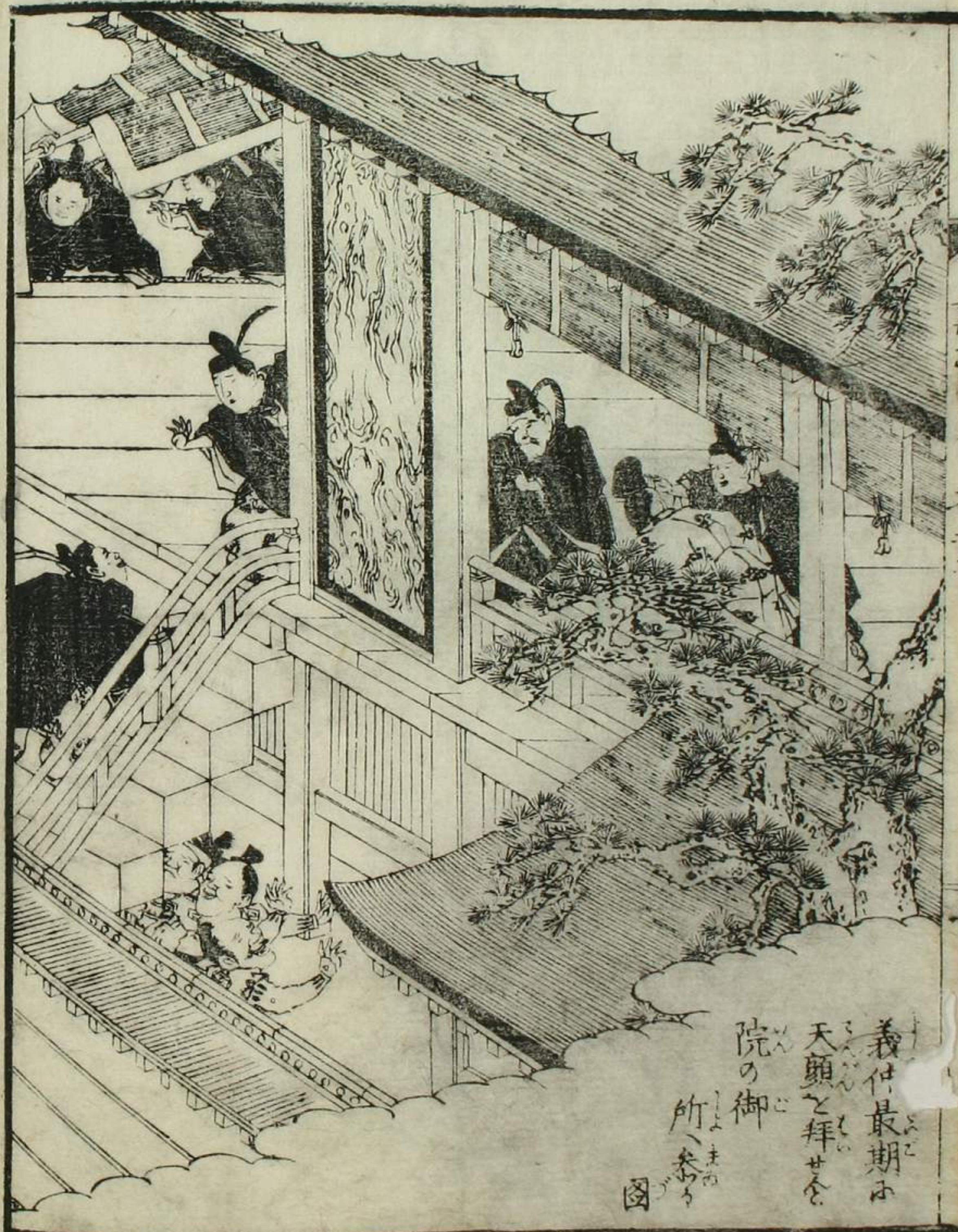
漂へ処を釣の頭をかく。喚て蒐入々々斬て回。木曾山首の荒武者が
 今日成限と働く更かれ。其軍威の属たる。逆浪の崖を砕く。遭者を
 殺。凡る者を討中。小早八紅井小秋の野の千草成縫宿。たる直垂小
 紫威の眉を著。春風と号。若毛の釣の逞。小金貝。三巴摺。金鞍
 置てあ。黒漆の柄。小金の蛭。卷。たる柳葉。刀風車。の。環。一陣小進
 相働。其馬前小向者。或首成虚空。小切上られ。或身を大地小落。され
 腕を七。股を斬。時。回小討者。十四五人。手負の者。數。たる。其外望月
 手塚金剛。岡津楯根井を首。木曾殿の頼切。たる。一騎當千の勇士。馬。も
 人。も。社。當。成。幸。小。難。回。程。小。田。代。が。五。百。騎。若。干。討。散。る。成。敗。走
 木曾方。小。二。河。左。衛。門。頼。致。を。も。究。竟。の。勇。士。三。千。六。百。騎。討。死。り。義。仲
 敵。を。追。散。り。一。息。継。ぎ。小。安。田。三。郎。義。貞。六。百。騎。少。て。進。来。り。喊。を。造。て。攻。り
 木曾方。鷹。行。小。連。て。是。を。蒐。立。手。小。隨。て。切。て。回。き。を。敵。辟。易。して。引

安田三郎大のいづ怒こ當手あての敵あか木曾殿きそとのと見ゆるを責せて討うたり。鎌倉殿かまくらの儉賞けんしょう小頼こたのりとよと鞍坪くらひら敲たたて下知したししれむ。是こ小属こぞされて又足並あしなみを立た整ととの正ただし。養直やうちく小進こしん来きる。中なの小山こやま十郎じゅうらう宗頼むねたのりといい者もの何卒なんぞ木曾殿きそとのを討うんと自みづか余よの敵あか小自こみづか自みづかけむと馬うま乘ま回まわして大將軍だいしやうじん以もつ付け狙ねら小望月こぼうげつ太郎たろう端はななく是こと行ゆ合敵あか將しやう名な稱せうとよ呼よりりる。小山こやま六望むぼうすぬ敵あかなき声こゑけられて自みづか稱せうさるも臆おそたり。今いま日ひの合戦あひび木曾殿きそとのの御首ごうゑ賜たまらん為ため小斯こし尋たづねる路みちを周まわり通とほりし。望月ぼうげつ呵か々とここ旭あさひ將軍しやうじんの御首ごうゑを得えんと小実剛こみづかの者ものも遮さ莫な我われ眼まなこ小遮こさしむと通とほとと斯し止とどり上あと中なと通とほとと及および望ぼうを止とどめ退ひたり斯しのと木曾殿きそとのの御内ごうち小度こた申まを剛ごうの坐ざを欠かき望月ぼうげつ太郎たろう秀包ひでたけと呼よりりる。小山こやまも憤い怒こゝろを發はし通とほとと六む封ふうて捨すて通とほとと太刀たち内うちりて斬きてと望月ぼうげつもけと拔ひ連秘術れんひじゆつを盡つくして二十余にじゅうよ合戦あひびとよと力ちからえさる望月ぼうげつ早はやく敵あか乃すなは綿わた嚙かみ深ふかく

斬き込こむ。小山こやまあつと叫こゑぶら横よこ小掃こはら小鋒こさか望月ぼうげつが不ふ嘴くち小切せり。然しかも瘡い中なの遂すい小山こやま六引むい寄よ首うゑをふとと掻か切きる。頬頭ほくづの痲まより流ながる血ち眼まなこ小今こ平へい眼まなこ叶かつと今いま八甲はちが斐ひか見み者ものの手て小封こふう入いり。自身みづか腹はら搔か切きてと矢や小多こた。此こ間ま小安やす田たが勢いきハ散さん々ざ小薙はらき手て負おけ死し若わか干か小ねこび遂すい小堪かむとて川原かわはらを南みなみへ敗ま走はると木曾きそ方かた小望月ぼうげつをとら郎黨らうたう十六じゅうろく騎きをと封ふうせさる

楯六郎以下戦死條

斯こて木曾殿きそとの身み方かた小頼こたのり始はじめ五百ごひゃく余あまり騎きの勢いき今いま八はち百ひゃく騎き小なり。其こ矢や瘡い太刀たち痕あと負おて鎧よろいの毛けも朱しゆ小成こなりてと力ちからえさる。小知こたのり猪股ぶたまた小平へい六師むつし岡おか兵へい清せい雨あめ人ひと八はち百ひゃく騎きあて真黒まぐろ小なり弛ゆる来きる。木曾きそ方かた些ちも動うごせと三百さんひゃく騎きを更さら鱗うろこ小隊たい香象かうじやう乃すなは波濤はたうを衝つて巨海きよを洗すすぎ勢いきハをとり。あつと喚こゑて群ぐんる敵あか中な小割せて入い縦横じゆうへい小蒐さう恟しゆうと猪股ぶたまた師岡しおか中な場ば敷しきの切き者ものなれむ。右みぎ小用こもち左ひだり小瀬こせと前まへ小伐せ後あと小田こたと手て小出こで入い亂らんして交戦かうせんと兩軍りやうぐんの馬うま烟えんハ討うたぬ霧きり殺ころす人ひと



義仲最期の
 天願寺拜せを
 院の御
 所へ参る
 図

義仲最期
 天願寺拜せ

馬の足音の響けをいれ小雷の震がく。斯て両勢全う小属く戦ひ。俱小備を二つ小別ち。師岡八木曾殿と桃合猪股八揃落合等と構戦と。此時楯六郎八字治乃合戦小三ヶ処の重手を負ふれども。猶更とせむ先越より三隊の敵と蒐破り。馬武者許多討多。其身由鉄石かられ矢砲太刀砲等。數多打ひて今八眼眩と心神乱れ多。血汐を啜て咽を潤し一息絶で猶藤処小猪股多平の者小相場平六重綱といふ者。馬蒐寄て高声小。其なる八揃殿といふ八僻目ら斯や相列の任人相場平六重綱といふ。一太刀矢あんと呼り太刀振挿して堅てく。楯六の眼を用え重手數多負ふれども。旭將軍の御内小四天王と稱せしる近忠成已。死者の結んと八曲支なり。然ども志のあかりしを組で勝負して全ふ。大手成廣げく。平六も望む処と太刀投捨押なり。へく無手と組六郎早く敵を引寄て腹小狭く翅縮小強く志むる平日るを忽ち相場も締殺さる。命をれども戦ひ疲き。上手負の近忠をれ。平六

強く締られ方々死を多追ふ。左右して左手指抜く。胃の透洞を拳も通。刀刺挿刺き方々平六が兜を搜り合。両手を敵の咽輪ふけ。苦れす。小締れを平六も敵を刺方々。終小目より鮮血を吐て息絶。近忠も其終死。多るが骸互小手成放。猶馬の上あり猪股が軍兵も追小。此財を刃令。維方れを斯く採合。一人を身方。力成添。て蒐倚。々々刃てあま。馬の刻つ嘶つ。れども馬上。乃兩人。息。も。金。り。不。側。小。怖。多。く。寄。て。乃。々。小。兩。人。も。小。死。人。分。り。者。も。咽。果。て。馬。り。引。落。楯六郎が首を檢斬相場。屍。又馬小縛付て退れ。其間小落合五郎も乱軍の中小戦死。自余の者も過半亡。残卒八木曾殿の勢小弛加。諸太曾殺。師岡勢と追つ。及く戦ひ。ゆひ。遂小敵を追散。身方を顧。あ。楯落。合を。ろ。ち。示。徒。乃。郎。黨。八。騎。兵。卒。百。余。人。を。折。た。り。然。る。処。へ。梶。原。平。三。景。時。日。平。三。景。高。五。百。余。騎。を。卒。一。鯨。波。を。作。て。襲。ま。る。木。曾。殿。

玉つと根井高梨那和手塚多胡岡津大夫坊金剛禪師亦成真先小之船を
 巴子小馬の前次拂つせ面ゆめを敵中へ蒐入鋒より火槍を出し悪戦一
 其勢ハ決死して猛虎の群羊を驅りて梶原の隊伍を破りて乱れし右往左
 往小弊走りて死傷の者數多しと堪へて綱を引木曾殿突と蒐抜て身方
 然ハ少くも決路冠者宗弘を首十五騎討ち兵士百五十騎討ちたりぬがら
 法谷庄司重國三百余騎めて押来り引包で一騎も余りしと探る木曾の
 魁根井大弥太と宇治の合戦より已ハ五度の戦を往りしゆが一ヶ所の浅
 手成り負むと精神益加かり鉦元まで血淋漓る大太刀抜挿し近付者を斬て
 落とて野草を薙ぐと組人とも者掻扱て人礫小少遮る者ハ馬足小
 蹴散し敵中成東西とも吏人ハ郊野を往らと其外手塚那和高梨以
 下一死族と成て働く程小法谷が陣形ハ如く成て敗走と六番小土井次
 郎実平又子六百余騎産異小備へ木曾が小勢を引包人と寄きと此

体を令て木曾方ハ小勢成圓隊と右ハ蒐て左ハ及し北ハ向てハ南成伐千
 斐万化小蒐幸の心をさし中の実平ハ銳氣小怖きて散る小敗績しと木曾
 殿身方成り少くも岡津高梨大夫房をとり十七騎討ちし今ハ全後百騎小
 ハ不足とも猶屈する色なく敵ハ見合各息成て継小る

塩谷三郎討八嶋行忠條

却鏡源九郎義経ハ仙洞の守護成佐々木梶原畠山法谷川越小純ハ我
 陣營小弛飯らるる処小木曾殿の軍威厲く已ハ五六陣の強敵を撃散し即
 今此所へ押来ると颯然陣中強だ討ち最中たりと義経大ハ削し木曾
 木曾が武勇ハ世人の知所なり況討死とかり断らる死族をれを容易小勝を
 得てたれあつと備を整正点し敵を侮らと向ハ登りて千余騎成二隊と成
 龍乃雲成巻勢ハを顕し徐々と押出さる木曾殿遙小刃少小龍龍膽乃
 白旗を風ハ靡し一群乃敵押来ると其光景隊位整とて自余

べたふあつたれむ。身方を顧て仰せたる。八人下り列位彼陣こそ宇治の手の大將
 源九郎義経なり。渠曾て吉岡鬼市の兵書を學べり。中が果して陣法
 尋常なり。此敵こそ望む所なり。義経を討て戦死せむなり。最期のやりひ
 出何まう。是ふ如人心を責て戦ふ。指揮しむを部下の将卒承りて。武
 具汰敷平一喊を作て。聲をてり。彼方古令未曾有の名將呂佐孔明の智術を
 盡して攻む。此方八和漢希代の剛將頂羽責育り。勇威を顯し。蒐る。俱
 小虚実の妙所を叩た引を進。及せを退集散離合法を守り。小優劣ハ
 刀をさりたり。出る。処へ熊谷父子平山佐々木。今五百騎三百騎引卒々々
 追々小池加りて。木曾勢を中取。十重世重。小重りて。採る。今木曾方も
 網の中の鳥。鹽の裡の魚。ぐる。趣き出死やうなれむ。木曾殿も。雜人の手ふ
 くらん。より。既。自害せんと。志。を。巴。女。忙。推。止。是。八。御。短。慮。なり。見。て
 い。兼。平。瀬。田。の。受。手。と。て。向。ひ。い。ま。ど。勝。敗。さ。ら。な。く。も。此。田。を。切。抜。兼。平。と

一手みたりて。兎も角も。な。せ。ま。と。練。れ。む。根。井。も。俱。小。是。成。練。め。船。真。先。亦
 迄。近。付。者。を。切。捨。々。々。先。を。拂。て。蒐。る。其。憤。勇。小。怖。て。敵。軍。路。を。閉。た
 て。避。通。と。是。小。依。て。木。曾。殿。必。死。の。田。を。な。れ。川。原。成。上。ま。て。落。ち。後。り
 續く。勢。六。十。騎。許。小。たり。ぬ。茲。小。武。藏。國。の。任。人。塩。谷。太。郎。曰。二。郎。曰。三。郎。亦
 四。条。川。原。の。東。小。聲。々。々。今。木。曾。勢。の。落。行。を。今。て。我。討。角。人。と。馬。出。と。西。小
 由。塩。谷。三。郎。真。先。小。馬。を。川。中。へ。乗。入。り。処。小。前。路。より。黒。糸。威。の。曾。著。て。草。毛。の。馬
 小。騎。た。る。武。者。如。何。ゆ。戦。ひ。疲。ま。り。と。力。久。箭。成。三。筋。四。筋。折。け。な。り。川。の。西
 より。亦。東。面。小。涉。り。来。る。三。郎。早。く。声。を。け。来。る。人。を。敵。う。身。方。を。向。ら。り。武
 者。答。て。是。木。曾。殿。の。御。内。小。信。濃。國。の。任。人。八。嶋。四。郎。行。忠。存。り。とい。塩。谷。悦。び
 儲。ハ。能。敵。なり。我。ハ。鎌。倉。殿。の。御。内。武。藏。國。の。任。人。小。塩。谷。三。郎。維。廣。い。組。人
 り。ま。ま。小。川。甲。小。馬。亦。寄。て。無。手。と。組。女。時。ハ。操。合。と。す。が。俱。小。鐘。を。踏。切。川。へ
 唾。と。落。小。たり。され。も。兩。人。手。を。放。さ。と。浮。つ。沈。つ。俵。を。流。ま。り。と。段。を。り

流き多れ塩谷太郎曰く二郎湛子て加勢せんと川端へ立寄り下り深死淵
小流と兩人の影も見えぬを借俱水先とるる長あはる処ふ忍ぢたりと
水の色紅井あつて流るるおと心も心なると誰が討きやうんと居る所
左の手に切直成持右の敵の胃刺取て抱ひ刀が噓へ遊死する者あり兩人能
く見れども是即ち塩谷三郎なりと見え大い悦ひ其高名成を賞しとる。

巴子根井等勇戦條

去程小木曾殿巴子が練言小順ひ兼平と二隊あかしく五十騎許り落往
少くを路次敵兵蒐合せし追討と根井大跡太越後忠二郎和二郎以下是
を追拂々々して大将を守護する処すも武藏國の任人初使川原権三郎有直
同四郎有則と自称二百騎許り追蒐大音北陸道の大將軍と稱さるる
御身の正を敵小背瓜刀合せ凡悪き及合せしと呼りぬ小木曾殿は
召惡た奴が云条々の根井八が糸う深等蹴散せしと下知ある忠親承り馬

引及一鞍頭小衝さる鐘のく色を發し旭將軍の通行あり下馬して三拜
せんと六廿と追討しも人々奇怪の奴々一人あても御迹を慕う我太刀の錯小
せんむらとと嘆ひ睨しる眼二隻の鏡のく虎須臾小逆堅さかか悪鬼
羅刹のく傳へ漢末三國の時長坂坡の戦ひ魏の百萬騎を脱及せし張
王孟徳が勢ひも斯やとあり許りせん初使川原が勢敢て進を得む有直有則大
死お怒り根井とて鬼神小くもあつて深く先討取中下知するふり是は
國を為て鬼出と忠親憤声を発し大太刀振て難圓をむ小木曾殿も五十騎と
師て後小續た井の家巴の字小鬼を初使川原兄弟敵を小勢と侮り却
て散々小蒐敗らむと安くもとありひ大将小木曾殿が討取を自余の者攻む
ては洛行ごと大膽ゆ小木曾殿を狙て切てくる有直が其日のお扱水園地
の直垂小黒系威の甲白星の甲戎著し二十四指する黒羽の筒
乃太刀佩及し金屋竜藤の弓を持雲雀毛の馬小黒塗の鞍置て蹄る舎



力切圖會後



楯六郎
悪戦
討の
図

有則八赤威の胃小口一もろ甲を著一二十八指も鳥の羽乃征前を負三所
藤の弓矢持黒駿の馬小金覆輪の鞍置て乗し。木曾殿の側室巴子公主
の馬小引添て有しが。今兩人多大将を同掛け進まらば。馬荒出ー長刀
ひらりと振鳴ー兩人を遮り止て。後手てくる。勅使川原八是女と云ふと悪
兒重坊の口口小斬て捨人と変入て戦ひ。巴女はさふ吏とせむ。長刀と
電光石火のこく閃く。彼は撃是を測る其早業鳥蝶のてく。おと刃止る
吏能がれむ。兄弟ハ酒小酔し。今ハ物業ハ叶が。手捕みせんと兩人
太刀投舎大半放廣けてく。巴子早く柳眉カとり伸て兄の有直が
利腕下と七ひ落し。引長刀の石突む。弟乃直則胸板強く突くる小ど
何らわつと湛る。死有則仰及小馬より落有直片手斬きながら。兩鎧合ー
て逃出一神樂岡へど落行も。此間小根井以下乃勇士ハ敵を撃手散して。絶及
王絶死せし有則が首切て捨身方を誓ひ五十三騎の勢二十八騎小成ふも

木曾殿ハ此際アても諸勇士の務骨碎身一義を金石小比と云ふ感感一玉
ハ主従より落行む。茲小畠山三郎重忠ハ仙羽小有て法皇至上を守護
一々ろが木曾勢手強くして。諸隊の陣々を少敗り落ろく。安うと云ひ
守護を佐々木掘原小委其身ハ羊勢二百騎行む。二条川原の西の端へ
馳出ん小維と云ふと東國勢小勢乃敵を取囲く合戦最中と云ふと
む。女時馬をまき見物と。木曾殿ハ勅使川原兄弟を追まらして。徐々と落
らる。処小横山堂小與弥平次三浦堂小佐原十郎三浦二郎小三百余
騎めて追付たり。木曾殿後を顧み二十八騎を二隊小集ち。船小物採て敵
小當り近付者成切舎を蒐む。主將如斯方ハ郎黨カ人を猶豫を
死我劣一と死力を奮ひ相當る。根井忠親大音小千金の怒ハ廳扉乃為
小放とて。ここのけなる小斯行乃敵小大將軍の手成下ー。や有。此
敵ハ忠親小步任せ將軍を伴ひ。落とや人々といひ。群る敵を落花微

塵小薙回る巴子耶和以下の徒忠親が初小付。木曾殿の馬乃專ぼる採
て引回し敵兵を左右前後小薙拂ひく逐小一糸の血路を開け落て行
根井小曾殿の落むひり成りて。今小心安しと進六郎親直岡津平六ホと
と小敵を蒐散せしこと縦横七八度馬武者歩卒の嫌ひかく混斬小切
布と小討る者敷あつと太刀も鏝のこりなりぬ其後進中岡津も討死し
根井唯一人とありさるが敵小戦ひ勞きて退死残る者も忠親も剛勇小怖
て逆倚者なれど今こそ自害せんと曾の上帯小手成りけぬが木曾殿ハ
遠く落延あひさるくと後を顧みま二隊の勢小用きま小休たり是ハ大
妻と解りけり上帯引締馬小一抱れて蒐出まはさる風神の荒さるる
成多れを怖て追者中なりたり

根井戦死畠山狙巴子條

木曾殿ハ根井が練小巴変を不得主徒僅十三騎立て落らるるを畠山

重忠手勢を平して追蒐大音小其方へ落れ六旭將軍と刃争る六僻日る是
公武藏國の住人畠山庄司二郎重忠ハ及一合せ小呼りぬ。木曾殿身方
向ひ畠山坂東一の勇兵かり敵小取て不足なり。列位射残したる筈前何日迄
く貯る死。皆箭種乃有人限り射盡し。其後潔く戦死せしと曰小承りぬと
十二騎の内九人五並ハ敵を矢頃小引受て散々小射る中も巴子ハ射残し
奮鳥の羽の征箭を滋藤の強弓小短差取寧結射る程小此矢先中向者如何
なる扎と死。胃成り射徹され命を落さぬなり。是小依て畠山勢矢屋小
三四十人射落され左右を寄得さる処小根井忠親本雷のこり用て収率て入
中をも幸ひ小薙回る。畠山勢かりひもよぬ妻がれど大ハ孩死。強を木曾
殿人ともよむ。浩や者もと下知有小ぞ列士ヲ投捨せしと喚ぐ殺到と森
小於て培乱まをまりぬ。重忠大ハ怒り敵僅小十四五人。誓り鬼神なりとも何
奈妻うあらん我小續よとて船甲平の太刀抜拵し手乃下小敵三人斬て落し

浩あくと呼れは是れ氣を得て足並成撃半身多声て斬進む根井八猶も
 是れ成遊りて血戦一多うが重手敷多負太刀成さる赤折れを胃の上帯解さる
 天地小響く大音あて遠た者言ゆ申迎た者八月申も下よ木曾殿の四天王と
 稱まきさる根井大弥太忠親只今自害とぞせせ死首取てかりし高名
 小備よと言ひ左手指抜て鳩尾先より膝下までと斬下り取直して妻手
 の股より弓子の股まで播切腸成抵し出馬上小居蹲て卒たり多真小勇
 名天下小車平名の下空ううと最期の体と渾り多木曾殿還小根井成
 死より下りてひか落勇氣挽を俱小自害と佩刀小手成掛ぬを巴子以下急小
 推止是まで百戦を凌死むひも兼平と二隊成成り入の御度かりとぞ成小
 忠親死しむとて御心を屈しむ八日來の御勇氣小似し合おとと練多平
 処へ早畠山兵士を所て追束る巴子憤多怒王櫻花の額薄紅梅小変小大
 長刀下りくと揮鳴し蒐束る敵小渡り合茲小願を彼小隠多目時一時の内

小敵十七騎討取れをきりとの畠山も敵馬歎くつと引平次六郎成清を
 捉て中々多八木曾が郎黨小とりて今井樋口楯根井成四天王と稱して世小
 中え一剛の者と成えしが今井八瀬田の手小有と成樋口河内へ向ひて合
 戦小不會楯根井成小戦死せり並多小即今一人中身方を追退し八何
 者ぞ我十七才の年小坪乃合戦小會しり以来數百度の戦場を徑しり
 どのいざは是程の手強た敵小不遭とも彼八何なる者ぞと問平次答へて曰
 彼八巴子とて木曾殿の側室中くの能千介の強弓成言荒馬を八兼鎮
 赤物把ても無双の達者ゆていむ木曾殿の壬子組の天將の中小擇たまこ
 一度も不覚の名をとらざる希代の女ありといと中重忠長歎し我も木曾が
 妾小巴子といふ女ありて弓馬小達せりと成平うらむ必竟女流の徒何許の
 妻ありんとは舎しれ今其人をん其真なる成知り我坂東小名を忘れ
 身乃女小追まらまらし八弓堂前の恥なり並むとて女を敵小とらん申背めり



川原合戦
根井大弥太
カ戦自害の
図



知者あつて曰彼こそ旭將軍の妻小巴子といふ女武者ゆゑと答り内田悦で曰
 々るハ鎌倉殿の御侍も木曾が妻小巴といふ女あつて荒馬の騎強弓の精
 兵ゆく鉄城石陣といふも渠が向ふ破らむといふことなりと更紗の
 女一度見し身近く召使まふ。と戰場ゆく行遇を生捕て之を
 曰ひた然る今遇々るハ天の賜なり渠勇なりといふも百人かかるとあり
 我六十人かあり。今彼と一騎討の勝負せん。汝一人も加勢まふ。家
 吉程の者が女人を虜ふ。郎黨の助力を得。あんと汝汰せ。ま
 てい。た武名乃耻なりと緘々ふ。郎黨もハ巴子といふ名はあつて
 くれ。更かれ。主の釘を幸ふ。側なる林の中へ入戦慄な。見物す
 巴子敵の一騎蒐ふ。来る。木曾殿へ向ひ。彼方より来る者一騎討せん
 とも小郎黨を退け。とかりひ。君も是。不聲む。ひて勝負を御覽。と。徐
 々。馬を歩せ。り。内田是を。培。笑。壺。入。近。と。寄。る。元。来。家。吉

小東國小宮へ好色人ゆく甲冑も最花や。小村子の直垂。小段
 系威の鎧を。白銀兜。貝甲の三枚綴。を。猪首。著。鷹羽の征
 箭。廿八指。を。高小負。金造の太刀。文字。小佩。黒の釣の。逞。紅
 梅の厚総の鞆。鏡鞍。置。て。乗。り。巴子。迎。り。て。笑。を。作。天。を。武
 者。振。り。懸。く。見。え。東國。て。小山。津宮。の。殿。千。葉。三。浦。の。殿
 御名こそ。其。眉。目。の。懸。さ。嘆。れ。る。花。の。露。と。合
 り。風。情。を。内。田。十。合。心。小。悦。ひ。御。目。利。を。違。ひ。是。ハ。遠。江。國。の。住。人。小。内
 田。三。郎。家。吉。和。女。郎。小。曾。殿。の。側。室。巴。御。前。と。見。ハ。解。目。好。で。女。敵。取
 り。小。あ。は。れ。も。鎌。倉。殿。の。一。度。巴。子。人。を。や。と。仰。り。斯。ハ。希。る。や。と。太
 刀。射。弓。箭。力。競。何。き。所。望。小。隨。ふ。と。巴。女。小。微。笑。諸。名。か。も。皮
 ざ。御。方。よ。王。郎。黨。ハ。不。畏。箭。力。負。を。引。一。手。見。さ。り。度
 こ。と。と。ひ。内。田。巴。女。小。已。然。嘲。を。皮。を。皮。て。心。怒。を。多。う。手。然。と。下

但一何然の的と云ふと問。巴子笑て曰。戰場にて敵をこの的と云ふれ其れ其れ知ぬ弓取なむ。技の程も無うと思れぬ。只疾く退かて二つか死命全しんと朝弄し。これ内田大い怒り。舌の根の伸る女も手捕せんと。此を付る本意なきふこの的を望れ。汝が胸板の穴彫て得させんと。や馬成退け。三人張の弓も鏑矢も番とをり固て兵ど放つ。巴子六絃音成やと比く。身然もて飛来る箭前成。眩まると内田甲矢を射損。し矢を射て再の射る。成日く。除て手小取おど。三郎堪る。弓成く。捨て捨太刀拔を。馬成。障て斬て。巴女。自着と馬成。立て内田が切込。二刀を振も。早く拳を固く。敵の二腕成強く。撃。太刀小撃。れて三郎太刀成取。落し。流石。健者。を推並て無手と組。巴子大い笑。い。廣言。お。以。ど。ろ。も。太。刀。も。元。下。小。拙。死。身。を。を。の。く。巴。子。程。の。者。小。組。多。る。膽。斗。さ。軍。八。斯。と。る。者。よ。と。恰。も。小。兒。を。捉。下。如。く。甲。の。真。額。小。手。を。掛。て。鞍。の。前。輪。小。拉。付。再。び。腮。小。双。手。成。け。二。拾。二。拾。為。

ふと刀をえたるが。逐おあつは。拾切馬乗あ。りて障。泣。れ。内田が骸。大地。倒ど。驚。落。ぬ。是。を。見。居。る。郎。黨。も。あ。お。怖。の。女。や。と。く。雲。霞。あ。を。逃。去。たる。巴。子。大。將。軍。の。馬。前。小。之。り。て。内。田。が。首。を。突。儉。小。備。へ。れ。二。目。脚。覽。下。て。呼。無。慙。や。東。八。ヶ。國。小。安。へ。美。男。然。剛。の。者。な。り。多。ふ。討。を。多。く。使。無。々。れ。是。を。乃。多。ふ。付。武。士。さ。人。者。運。盡。ぬ。ま。何。者。の。手。小。射。ま。ん。量。ら。れ。む。予。も。今。日。を。限。の。軍。を。れ。後。日。小。義。仲。を。最。期。の。除。や。女。を。具。たり。とい。ハ。ま。ん。も。無。念。な。り。汝。此。戦。場。を。落。て。古。郷。へ。飯。り。予。が。妻。子。郎。從。の。妻。子。も。最。期。の。様。を。語。ま。と。仰。れ。む。巴。子。大。い。泣。け。涙。さ。り。て。や。多。ふ。是。ハ。情。を。死。御。旋。る。あ。妻。幼。死。時。より。御。見。出。し。預。り。ま。い。せ。浅。く。ぬ。御。情。を。蒙。り。一。日。も。御。側。を。放。ま。さ。さ。と。軍。の。場。小。隨。從。侍。多。ふ。兼。て。は。ま。ら。丸。玉。の。緒。を。御。馬。の。前。の。塵。と。な。し。此。年。月。の。御。惠。小。報。の。来。世。迄。も。仕。ま。ら。ん。と。を。祈。侍。り。し。末。期。の。御。容。射。を。見。ま。ら。む。争。久。見。捨。進。せ。現。々。と。古。郷。へ。飯。れ。付。

るた籠小飼會檻小艱歎とて押て王を忘れぬるを増てや人間の身と
 して深た思義を忘るは妻八取今女か弓矢前道中も推かり七手組の
 中あも策られ身乃君の弓折勢ひ窮る期小臨と命成各王成捨て落し
 不義不貞の女多と世の憂人々ふあをあらま人も朽惜くこと侍(御最期
 の隨後)叶ひ侍くも今自害して九泉の御魁をかりまんと既小う
 よく月をえたる木曾殿急小抑面ひ中処理りかれも義仲國を出し刺
 小專君忠の爲をの心して出馬せしふ其功半小して後傍の爲小妨らま心
 小思ぬ狼藉然も君小弓然も害しるを無り古卿小残る者も功小誇り悪
 逆の心も崩し朝敵の名をさ蒙りて身を亡し家名をも汚しと歎の
 中あも恨まらん是ど九泉の障なれ汝が今死する命を存生遺物を持
 て古卿(飯)り我最期の様をも語り且朝敵の悪名を蒙り本末言解
 上猶是然も不肖とならむ永たせめて勅當たるべとくは口説仰とるあど

巴子も今分かく命も心小ふる物をもと縁ト久歌乃意も身小當り
 只伏沈々泣居り木曾殿願て肌乃守と小袖一箇を巴子小早敵の寄
 るけそひととど疾々落よと練屬一躬小残る郎黨と羨や粟津(向)小兼平
 を尋小弱を早々く蒐め天猛心の棒引引友さぬ武士の倭魂ど潔き巴
 八泣々脚背影を見送るは千軍萬馬も怖る身も流石女心とて君乃別
 離小泣屈居脚遺物を抱た赤伏々多と向近く敵の寄る音小おとろ馬引
 寄て赤騎折しあも田代平山勢木曾殿の御迹を追く蒐果て巴子と見
 て避さくと取倦成あも更々乃敵や女と漫り不覺あせとと呼し柳葉刀
 閃りて東小追西小討當り不運と切廻りなれさも乃大勢恐怖とて綱
 と閑近付敵ことをなかりなり巴子も好しぬ軍かれ是必去不とて上の山を
 越北國さして落行り其後世諱蓋て右大将家より被召るる固く綺退
 中々も強く巴子小依已度を得鎌倉泰王頼朝公其武勇を

島山次郎重忠

巴女を千擧めんと

鎧の袖と捉へて

巴女馬を拍く鎧乃

袖を曳ぬ落延

々々八俱ふ無双

怪力かりり



千八百騎小て入替り笠前襖造く射あたまと兼平猶も屈せんと鍛を傾け鎧
の袖袂込合せ敵箭は避大浪のあたまと喚て蒐立まて敵勢其男
銳小中王の討る者麻乃てく是の叶を引退く四葉小五郎行般千
葉助常貞小太郎貞正二千余騎や山の山朋る如く押け八方を圍て採る
る木曾勢は是の小涉り合縦横小蒐田りて相働く就中兼平八三尺八寸の厚
作乃太刀は揮て敵中を往來し近付者を真額梨割拜討ゆ掛繩十文
字小斬て落と其太刀下小向者人も馬も命活るはかりり千葉木林の両
勢も心十分剛なれども兼平は獅子奮迅の勇小敵し既小浮足小方つて
かへるる処小維のたてり搦手の義経都攻入木曾殿早討まひぬと言出
し短兵急小斬進む方等三郎義弘兼平小向ひ大將軍も討まひぬ
と云へ虚う突ちあつたれども敵宇治の手を破り上へ最氣遣し御辺に此

所を引く都(飯)り王君の安否を探り身は當所を我踏止りて命の有人限敵
然喰苗が下と兼平尤と同意し三百騎を引きて湖の西の渚を北へ向てけ
行り方等八残る勢を一隊とて襲ひる敵を喰止追つ及つ交戦敵と
討更許すなれども敵追々弛かり身方八漸々小戦死し言甲斐を抜る
落行今八世騎むり小成々れ今八是中てとて大音小木曾殿の一族小方等三郎
義弘生年廿八才小今戦死するを見お死てませ乃美經小傳よと呼り胃解
捨腹十文字小搔切て失りり是は乃て残る輩或自殺し或八別處へ死を
戦場の塵となせとも名八高天小を揚小る

東北両軍上父戦大栗津野跡

諸も木曾殿八巴子小別を胡手塚父子大室兄弟五人を師と栗津をきて
来々を以ひし端なく兼平と往遇大木悦びお金の婚しさい直手を
取組女時泪小留め木曾殿仰る身方乃武運已に

槍根井仁科高梨松首郎當盡く討咎りしを我
 下が諫ゆり甲斐を死命成貯ひ汝今一度對面せん此所より落延多
 小端を環過更主從の奇縁盡く處ありとて
 今井ヤ々々兼平を命ましく思召すとて是すて御渡
 騎の勢成領し君を守護しより越前國府退死言報の輩招た
 再度の合戦を催しゆと勸成木曾殿頭を揮ひ否とよ敵六萬
 余騎の大軍めて八方已小塞まんと敷止命を命て落人をも見惡死敗と
 名も死者の手小懸人の死後の耻辱なり只潔く敵を引受かり後小軍
 て其後自害とて兵糧竹葉成はる女時英氣を兼ひゆ死す木曾の
 存命ゆい兼平と一手小かりゆと受討とて其勢此處彼處より三十
 騎五十騎弛集りし五百騎を成ふる大將喜悅限なく西山成背は東の濱
 を前小當て備を立矢襖造て待し程を武石三郎福盛岡部六弥太忠護

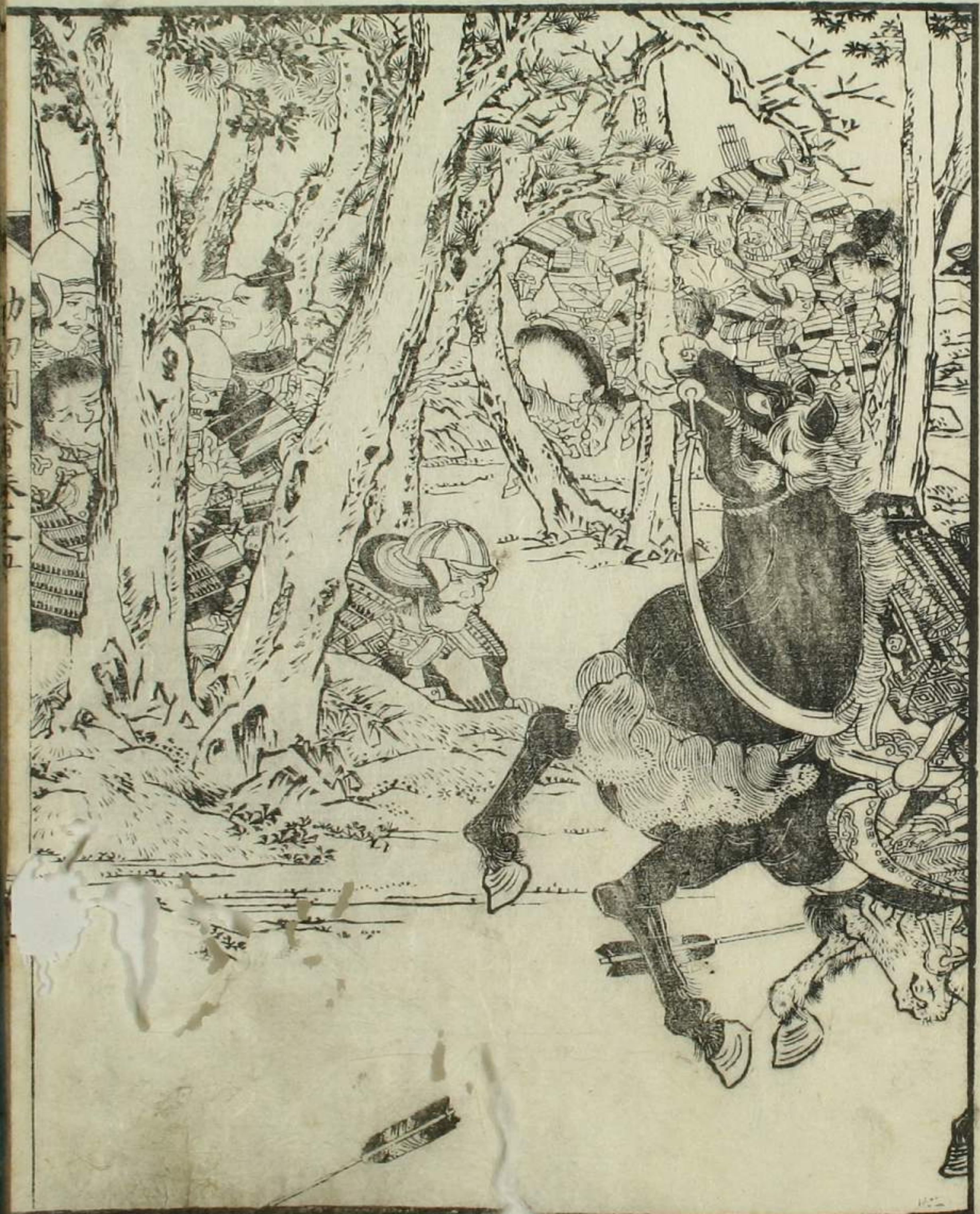
七百余騎めて攻付り待致し北國勢雨りて前を射しけ澤の処を大至二
 河多胡の輩二百余騎めて唾とち出散る小難なる東國勢ゆ茲を大吏と
 引を千負死人を兼越飛超火花を散して戦ふ北國勢必死とま
 ひ定り上かれ射まとも切まともまともせと踏込く戦ふ程小東國勢終
 當りて引退く北國勢ゆ二河次郎頼重をより三十余人戦死すれも戦
 ひ勝て引及ぶる處へ甲斐源氏の二條次郎忠頼板垣三郎兼信七千人入
 ゆく栗津濱小出より木曾殿敵の旗前を足ゆい彼へ甲斐源氏も
 足ゆい六幡太郎の末裔彼へ新羅三郎の流れて俱小百姓の民をれ殊小
 耻ある敵を悪く働きて笑つるかと指揮し五百騎を兼
 一條板垣木曾殿とて大音小それ小脚渡り地將軍
 せぬ是へ甲斐源氏乃嫡流武田太郎信義が嫡子一條入
 信いよ御運盡て續く御勢ゆ今八叶の軍仕
 板垣三郎兼
 甲斐脱旗を伏

て御降参り。二口の好意ハ其ホ切替て鎌倉殿御中願ひ進んで
とを呼り多。木曾殿大なる怒激あり悪た扇輩が二十の義也活命を
ハ百萬騎也て困むし蹴破りて通人ハ何更なるん。汝
予ハ辱すまらしハ予前をとり拒敵こと能ふと鎌倉の
こく諺言成構て確執を起させ頼朝の手成借て予討介
其心引比將軍宣下を承りし義仲ハ降参せよハ何更なるや如何や者共
渠奴ホが臆斬下て再度澹結を吐とて勿きと下知ハ承りし
ハ輩我先中ハ返半てくるハ一係兄弟ハ甚怒リ親王門跡を討せし。天
命あつた無通人を討取て高名ハ備よとて七千余騎を霍翼ハ備引包て
伐んんと木曾殿包ませと專成ハ九龍ハ雲を凌ぐと西ハ地東ハ
蒐リ目ハ余る多勢の中ハ人ハ見を往くと五六度むり蒐悩ハハ甲
列勢討る者數あつたと乱まて敗走と木曾方ハ百四五十騎討せて本陣

ハ上リ一息あつと吐き返甲斐源氏の棟梁武田太郎信義舎弟加々見次郎遠
光二條板垣ハ敗北の耻辱を雪んと二千余騎出て圍を為り攻寄る木曾殿亦
隊を出ハ舊地直ハ蒐立々々七八度まで追索ハ武田勢ハくまら小討せ
叶て引退。木曾勢ハ百騎余を討せが敵や寄ると見事ハ甲斐源
氏ハ流ハ逸見四郎有義伊沢五郎信光兄弟其從弟ハ小宮三原小次郎長清と
三人三千余騎出て寄来る手塚又子母胡今井會秋ハ敵中ハ割て混
切ハ斬て回る其餘の徒ハ腕限りハ刀限りハ難立る程ハ敵ハ共ハ折き
蹴り子を散とて散乱甘り木曾方ハ五十余騎討て残るハ百五十騎ハ
過りたり然る処ハ縮毛捺谷先敗の耻を雪んと二十余騎
ハ此敵ハ渡リ合神出鬼没の秘術ハ盡して蒐立ハ縮
數とて堪て再び敗績と木曾殿身方を顧みハ一騎討てハ
此時ハ東國武士金子十郎家忠ハ名ハ市親則
五郎永好別府太

郎義行長井太郎良之介と二十余騎にて押来る木曾の敵寇の戦ハ漸々
 兵減リ其之ヲ手負キ。或ハ甲ガ歩落サレ或ハ甲引カ大言の及女木曾
 深太刀長刀ハ筋ノ如ク成レレモ一人モ退ク心ナク群ル敵モ
 共怖ムコト只一足モ前進シテ死ヤト互ハ練ヲ厲シ。呼々鬼立
 死憤ヲ勢ハ鋭ケレモ東國勢支ヘテ秋ノ木葉ノ散ゴク。或ハ或西ハ敗
 走ト。木曾殿ハ敵ハ追散リ。木曾も主従二十三騎ヲ討ケサレ今ハ斯ク
 少ク。木曾殿ハ方より一群ノ大軍潮ノ如ク押来る。木曾殿ハ
 甚テ驚膽ノ天眞ハ中陣ハ靡シ。諸惣大将浦冠者範頼ナク。逆モ元
 道ナク。範頼ヲ討テ死セシメ。木曾ハ其ノ指揮シ。少
 少ク。各テ流ル血泣ハ咽ヲ潤シ。二十三騎一塊トナリ押出シ。範頼ハ
 十余騎ヲ敵ハ百重千重ハ取曲シ。前ガ射ル。東雨ノ如ク。木曾方ハ無
 一騎モ討滅サレ。人當千ノ勇士モ。札ノ甲引カ。甲ハ

能ク此中怖ム。範頼ヲ傾けて猛虎の怒を顕ハ。鬼通シ。敵を討吏
 般石ガ。鶏印を確ガ。難捨斬捨。東西南北。支七八度。小及
 東國勢。殆ど果彼方。逃此方。追。陣々。紛。乱。今井四郎兼平
 ハ何卒大将範頼を討。群敵を切。難。中陣。彼
 処を。赤地錦。直無。紫下濃。胃龍頭。甲を著。雪。白
 馬。金覆輪。鞍置。腰。小。騎。配。下。知。人。是。大將軍
 浦殿。大。小。愧。遮。敵。馬。足。鬼。其。間。十。間。地。近。付
 範頼。臣。大。馬。何。者。大。將軍。御。前。進。退。狼。藉。今。井。の。四
 郎。兼。平。大。目。揚。木。曾。殿。の。御。内。少。四。天。王。の。隨。今。井。の。四
 郎。兼。平。浦。殿。小。見。恭。人。推。参。せ。妨。な。せ。と。以。俟。木。曾。一。血。不。流
 太。刀。然。揮。て。近。寄。奴。原。右。小。左。切。て。捨。る。其。体。火。雷。の。如。く。如。か。れ
 範。頼。肝。を。消。混。鞭。步。て。逃。出。さ。る。兼。平。大。小。怒。早。小。似。氣。た。一。正



かく後然んせむよふ返一玉と叫びて追蒐る。範頼其声を聞きしは頭
上より雷霆の落くる心地。肝魂も身も添む顔色も外らる。浦殿
の近臣十余人兼平が遮りて得置けし。一合とよと兼平はかり敵と
討洩て怒気胸も満奔雷のしく吼とて。六人を斬て落し四人の手を負ふ
其間も竹範頼遠く逃延られし。兼平大い望を失ひかゝる。主君の御身氣
遣いと地回て尋る処も出乃濱の方も當り。敵勢真黒かり戦休るれ
む。若やと馬成りて鬼付人礫をちつ。冊をち破り入て見らふ。木曾殿只一騎
討たれ鉢付の板も箭二筋射付られかゝる。両刀成りつて敵を切拂ひく働
居む。兼平大い悦び。御存命こそ嬉し。兼平是まで泰いと呼り
れむ。木曾殿力成得む。主従二騎も連て雲霞段の如き敵中茂蒐え々々通
りぬ。其体凛然とて猛虎の千里茂走る勢ひをぬ。維く討止人と近付者な
く路を用たて逃退く程も王臣難なく重地を出て栗津の松原よと出さる

義仲最期兼平戦死之條

時木曾殿兼平に向ひ仰せさる。予が此曾の薄金と号て重代の重宝をぬ
合戦毎よ是を著これども更も重しと思はざる。今運の究る兆も肩
を切て重く賞ゆらりと曰ふ。兼平白何余さる更のぬた怪る。物の俄
小重く成つ死ふいと。都より當所まで度々の戦ひも御身勞多し。且御家人士卒
盡く討死と續く御勢もいひ。御心腹なごの故もやゆゆ。兼平斯て以上
八千騎万騎が随逐せし。より心剛むひ。去なが。今八御運も是までと
んえんむ。前面もぬる。二村の松の下まで心静小御自害い。其間ハ兼平是も
て敵を喰止一人も通し。いかと勸り中。木曾殿さ。曰く。予都まで免も角も
一死身を鈍く是まで落延し。人卿と死生を俱みせん。為かり。唯も小敵を引け
汝と同一抗し戦死せん。と仰さる。兼平推返し。是八日来ぬ。以てさ。さ
死御旋々の君御自害い。兼平ぬ。終み敵を斬て。死仕り。人。是君

俱小死をり。恐惶中征夷大將軍の宣下。成蒙王の御身の乱軍の
 中、斬死。雜人の手、御首を汚されん。死後、その御駐居する所、只
 彼処より、御自害の兼平の頭、戦死。九泉の御魁仕り、練属。これ
 こそ、木曾殿より、史多の兼平と別きて、御心細く、松原まで、赤せり。今井の
 御背影を見送りて、長歎し。昨鳥まで、百萬騎の剛敵を、物の屑と、六
 八、旭將軍と称て、小兒の泣をも止り、御身の六、随士卒、おなかり。只、騎小
 御最期の路を、赤せり。痛く、鬼をも、控心、不覚の泪、胃の袖を、沾
 して、間迫く、敵の寄る、武具、汰、整待、間もなく、三浦黨の勢、衝を、為
 て、押来る。兼平、六、騎、おて、太刀、振、排、ちと、喚て、渡、合せ、片手、かり、斬、り
 落、と、太刀、希代の利、かり、斬、人、北國、弟の強兵、なり。胃、か、人、を、斬、更、水、の
 下、横、小、と、太刀、お、首、成、虚空、お、切、上、及、と、刀、お、胴、を、地、お、切、居、組、人、侍、と、撞
 ち、人、で、礫、小、ち、馬、前、を、遮、る、六、蹄、お、けて、蹴、殺、つ。鬼、通、へ、引、及、又、斬、て、凶

とも、と、妻、勢、の、敵、も、只、二、人、お、薙、り、れ、逃、れ、入、り、と、深、田、お、陥、り、跪、て、八、人、馬、お、踏、殺、
 され、死、傷、の、者、數、も、と、同、た、靡、て、敗、走、と、二、陣、お、金、子、佐、原、が、勢、余、と、ま、ど、
 取、置、る。兼、平、猶、も、獅子、の、怒、を、顯、し、太、刀、を、電、光、の、と、閃、り、て、人、も、馬、も、い、と
 せ、と、波、安、羅、離、を、と、切、回、し、此、手、も、と、逃、奔、と、三、陣、お、甲、斐、源、氏、前、續、
 造、て、射、を、と、も、扎、死、胃、を、重、て、著、れ、六、程、の、箭、も、なく、鬼、を、切、て、回、る、
 ぞ、武、田、勢、お、攻、め、ん、刀、え、り、り、り、兼、平、が、饒、勇、前、代、の、例、を、定、む、未、代、尚
 有、る、と、思、れ、れ、一、人、當、千、と、八、是、亦、の、士、を、や、り、る、と、去、程、お、木、曾、殿、お、兼、平、
 練、小、順、の、松、林、を、と、て、蒐、め、り、を、回、る、と、三、町、余、も、有、る、れ、も、筋、違、お、行
 くと、一、町、お、よ、も、不、過、と、水、と、れ、る、田、の、面、を、筋、違、お、歩、せ、り、頃、八、元、曆、元、年、三、年、
 四、月、元、曆、と、正、月、廿、日、の、更、を、れ、る、峯、の、白、雪、深、く、と、田、面、の、氷、厚、け、お、八、分、か、
 流、石、も、春、の、空、と、陽、氣、地、下、お、萌、り、る、や、お、外、の、凍、解、し、不、固、深、田、お、馬
 成、兼、込、お、障、も、行、む、と、數、度、の、戦、お、果、し、良、馬、お

一寸の歩も得ず。木曾殿も今此後自害せんと短刀を拵りて兼平に如
何成ると後辺を顧みず武運も益々擧るの筈前二つ来つて内甲あつて三。大
更の手をれを其後眼睜た馬の頭小浩を俯伏し敢て息絶せし通齡三
十七才。平百齡をもちまゝの智勇兼備の名將後者の舌頭よりを去年の
功名一朝の霜と消身を戦場の塵とかりし更誰う是を憾さん。ふ所小
雑兵二人路を回て菟来り。頓て御首を掻切立飯人とも折し。兼平は主君の御
最期心もくかりとつて返らん早御首有しと刀之二人の歩卒御首を取
て去んとするを刃大の怒り。大將軍の御首を己亦く雑人の賜らんと身の
程あぬ渦虫をかして御首を奪ひ二人を掻抵て深田投込深泥は踏込主君
首を我直垂引裂て押包違此方の田の中深く隠し。再度馬ふち騎て敵
中へ菟入落花微塵と斬て回る。手並は知ら多東國勢敢て迎付者なく只方上
り遠矢よと射りたる。兼平も今敵五十騎百騎討たれとて由なれ罪作り

かりとかりの大音上て呼りたる。清和天皇の後胤八幡殿より四代嫡孫旭將軍
義仲公の御内中も四天王の隨一と呼まゝ今井四郎兼平が戦死する成刃上
や東八ヶ國の殿原とて心静小鏡解て腹十文字小掻斬其後太刀を口含馬
より真逆小落たれど太刀の柄後を貫て背白く出逐小空しく成ふより是を
見居る諸軍勢天暗大剛の者の最期やと感嘆とる色女時鳴も止むと
り斯て兼平討死せし後敵一人もかたれを乾損軍成收り勝喊を三度為
す。江中より木曾殿の首を奪ひ出し。兼平は諸勇士の首と俱小車小載
て洛中へ押せり。彼木曾殿を射る流矢前を後小改められ小相摸國の
任人石田小次郎為久と添ひて記し有る。木曾殿を討つが為久が功と成る
樋口兼光成虜被為刑餘

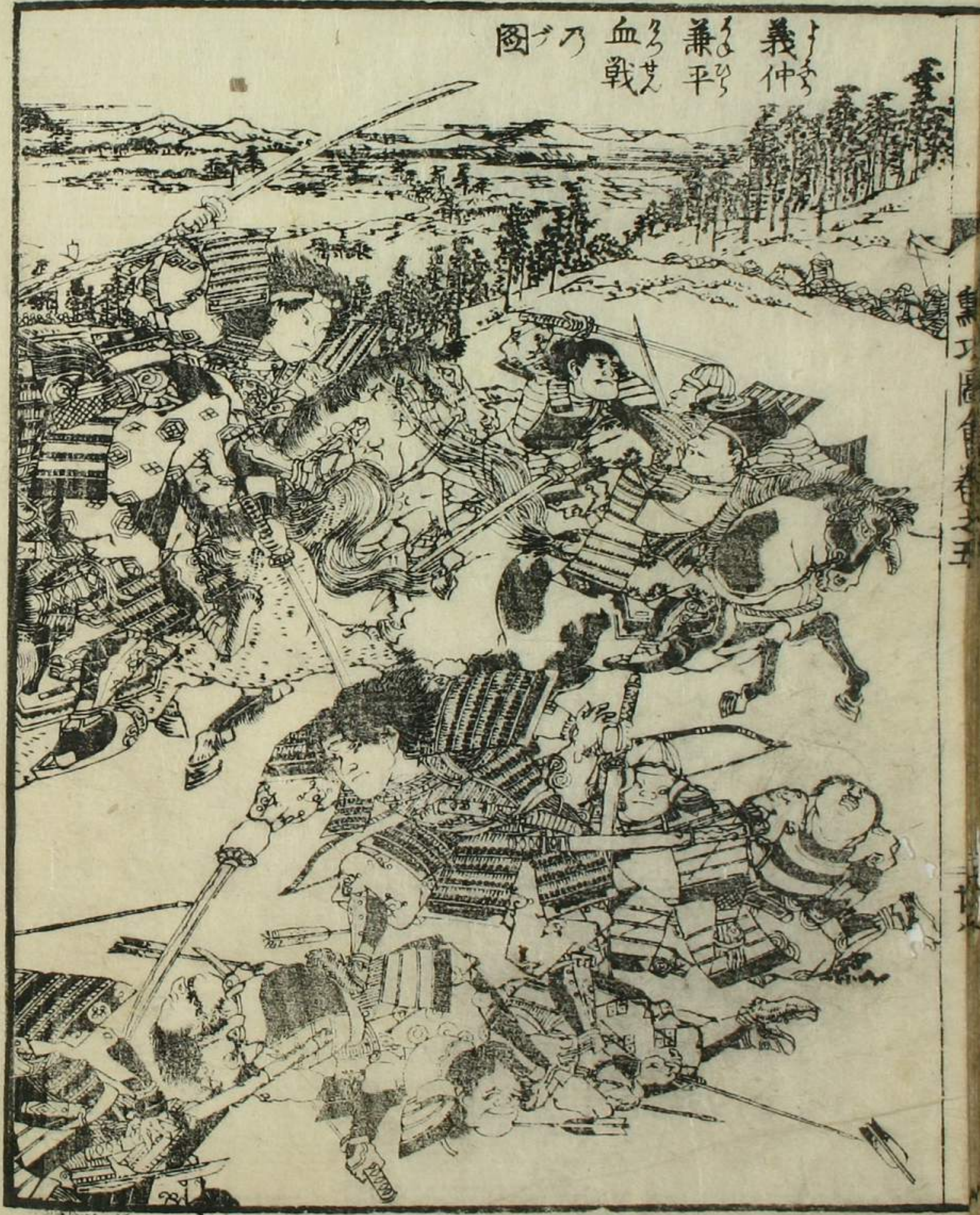
茲小本曾殿の四天王の二入樋口次郎兼光六十郎行家を伐つて河列石川の城へ
押寄息をも継せと攻まれば行家防御の術を失ひ城門を攻敗られし

後門より遷出泉路(落行)多ふと兼光其妻子着族を生捕都(引返)と処
 の大渡あり。木曾殿もや栗津原(原)にて討まひいと。大の御天(今)生捕を
 曳上るも益なりとて悉く放ち候し。諸兵士小對ひ木曾殿即運掛(戦)り
 ぬひ上、我も活ぶるあはれ京洛(寺)入り程働いて陣没(た)れかり。汝も中
 ても戦死せんとおひ者、我も隨(ま)る古郷の妻子をみり、徒(は)是(は)より速(は)退散
 せよといひ、皆(は)願(は)ふ俱(は)戦死(は)仕(は)らんとし、兼光(は)後(は)ひ(は)多(は)下(は)郎(は)習(は)
 ひやく何(は)う心(は)変(は)じ、大將軍(は)已(は)討(は)まじ、上(は)維(は)為(は)小(は)命(は)を捨(は)げ、
 三人(は)五人(は)と落(は)失(は)て鳥羽(は)曝(は)く、三(は)百(は)余(は)騎(は)の勢(は)八十(は)騎(は)并(は)成(は)ぬ、
 少(は)し屈(は)せど、鳥羽(は)の造(は)道(は)より東(は)寺(は)四(は)塚(は)をさ(は)て、
 人(は)某(は)野(は)太郎(は)光(は)弘(は)日(は)國(は)上(は)宮(は)の(は)某(は)林(は)太(は)夫(は)光(は)家(は)舎(は)弟(は)某(は)林(は)七(は)郎(は)光(は)重(は)二(は)八(は)樋(は)口(は)
 次(は)郎(は)が(は)縁(は)族(は)なり、多(は)るが(は)木(は)曾(は)追(は)討(は)の(は)為(は)東(は)國(は)より大(は)軍(は)の上(は)り、
 木(は)曾(は)殿(は)の(は)御(は)身(は)方(は)糸(は)と(は)多(は)るが(は)都(は)近(は)く、
 風(は)鏡(は)を(は)れ、大(は)い(は)小(は)力(は)を(は)落(は)し、此(は)上(は)自(は)害(は)や(は)と(は)た(は)と(は)儀(は)を(は)多(は)るが(は)樋(は)口(は)兼(は)光(は)は(は)河(は)内(は)小
 在(は)と(は)波(は)と(は)面(は)會(は)一(は)死(は)生(は)を(は)俱(は)せ(は)んと(は)都(は)死(は)忍(は)び(は)通(は)り(は)東(は)寺(は)き(は)く(は)る(は)小(は)喘(は)と
 樋(は)口(は)一(は)遇(は)を(は)れ、大(は)い(は)悦(は)び(は)互(は)手(は)を(は)把(は)て(は)大(は)將(は)の(は)最(は)期(は)を(は)悔(は)ま(は)ぬ(は)馬(は)死(は)か(は)く(は)く(は)
 上(は)る(は)處(は)兼(は)光(は)都(は)へ(は)を(は)早(は)く(は)東(は)國(は)勢(は)千(は)四(は)百(は)騎(は)七(は)条(は)を(は)西(は)朱(は)雀(は)大(は)宮(は)と(は)下(は)
 リ(は)小(は)弛(は)多(は)程(は)小(は)東(は)寺(は)の(は)此(は)方(は)へ(は)行(は)合(は)西(は)勢(は)矢(は)を(は)射(は)り(は)鯨(は)波(は)を(は)為(は)て(は)敵(は)を(は)戦(は)
 く(は)中(は)小(は)某(は)林(は)太(は)郎(は)真(は)先(は)小(は)馬(は)を(は)出(は)し、敵(は)五(は)六(は)騎(は)切(は)て(は)落(は)し、勇(は)気(は)奮(は)て(は)力(は)戦(は)を(は)多(は)る(は)處
 筑(は)前(は)國(は)の(は)任(は)人(は)原(は)十(は)郎(は)と(は)自(は)称(は)て(は)馬(は)を(は)出(は)し、某(は)林(は)を(は)目(は)付(は)ち(は)て(は)多(は)る(は)某(は)野(は)八(は)因(は)小(は)死
 を(は)決(は)し、これ(は)敵(は)を(は)嫌(は)む(は)と(は)迎(は)合(は)せ(は)太(は)刀(は)を(は)合(は)せ(は)て(は)五(は)十(は)五(は)六(は)合(は)連(は)小(は)十(は)郎(は)を(は)切(は)て(は)落(は)
 其(は)後(は)群(は)る(は)敵(は)中(は)小(は)切(は)て(は)入(は)り(は)程(は)働(は)死(は)て(は)討(は)死(は)す、某(は)林(は)太(は)夫(は)日(は)七(は)郎(は)由(は)敵(は)并(は)討(は)死(は)
 取(は)て(は)斬(は)死(は)し、其(は)余(は)乃(は)徒(は)或(は)討(は)死(は)或(は)自(は)殺(は)し、残(は)る(は)樋(は)口(は)人(は)か(は)り、兼(は)光(は)大(は)剛(は)の(は)者(は)ふ(は)れ
 敵(は)を(は)切(は)支(は)草(は)を(は)薙(は)り、大(は)量(は)小(は)成(は)て(は)悪(は)戦(は)を(は)多(は)る(は)東(は)國(は)勢(は)其(は)饒(は)勇(は)小(は)并(は)
 易(は)一(は)同(は)た(は)非(は)て(は)近(は)付(は)者(は)か(は)り、兼(は)光(は)馬(は)上(は)小(は)息(は)を(は)継(は)つ、敵(は)中(は)見(は)渡(は)る(は)小(は)團(は)の

易(は)一(は)同(は)た(は)非(は)て(は)近(は)付(は)者(は)か(は)り、兼(は)光(は)馬(は)上(は)小(は)息(は)を(は)継(は)つ、敵(は)中(は)見(は)渡(は)る(は)小(は)團(は)の



力刃圖ノ...



義仲兼平血乃圖
戰艾平仲

鳥ノ圖會卷之五

の旗押立百騎許りて殷々たる勢あり。是兒玉黨の旗府なり。樋只兒玉黨の
 縁体なれを自余の敵の手小掛人なり。兒玉黨小討きて渠輩小高名させんと馬
 成せて蒐到り大音小如何や今親類縁体敵々となら武門の目目今更珠
 しくむ。木曾殿の四天王と称す。樋只兼光を討取て高名小備よと呼り切て
 くらとろが原来討まんと意あまむ近付者然太刀のむひめて切々刃光傷の
 者かかりたり。小玉高馬中樋口を助をよとかりひれむ。矢を放さる物中交へ士
 卒小命し馬の足を熊手小くけて曳倒させ遂小無事。土樋小ま樋口眼を瞋
 一我武の情をかりひ洋と雷手乃徳小討まんととろ小却て縲紐の唇をかす
 るハ何更を疾々首を刎よと言りたる然人々制してヤ々る。御辺ハ木曾殿普代ハ
 家小のふおもあむと一旦の義小依て主臣となり。是道の忠節ハ世の知とろあり
 兼平ハ小戦死して忠義を顕せし六更足り。御辺ハ活て家を起し祖先ノ業
 を嗣てと道なれ難。是を不義とひれとて承伏せぬ兼光を強く帝都へ

伴ハ大将九郎義経公小就て兼光助命の義を種々歎れ願ひれを義経公も彼
 武勇を惜み助をもと思れれども一旦朝敵ノ名を得し木曾が郎黨なれむ
 私小助入更も叶ふと院忝あり。兼光が助命成奏向ある院も御気色ゆらと
 兎も角もと日ひたるふ女房達の中ハ知安行家ハ賄賂を常小得て木曾王
 徒を深く悪む人更りなれ院小就て彼樋只法住寺殿合戦ハ時維衣装
 を剥離を切害せりかんと迹形ハ更を絶奏し渠を御助命あり於て
 御所の奉公を辞し淀桂ハ身を投さむと怨し歎れ種々小妨るふより
 院の御意忽ち斐ト公卿と御詮議有て宜ひたるハ女官ハ懇訴も黙止さ
 且彼者ハ木曾が四天王と頼し程乃者ハ助命おれ萬一後日謀叛を企に
 小たおあむと只鉄とろ小如をうとて遂小其首義経ハ中渡しよ。是ハ
 依て力なく五条朱雀小於て兼光を刑せられり其後院乃宣命とて義仲
 小首及び諸郎當乃首を大路を渡し六条川原小鼻たし。仰りしれ

を範頼義経畏りたり。木曾殿より四天王其餘名ある勇士の首ども洛中を
引渡り六条川原の泉首せしめぬ是をみる者市にて心ある徒は其智勇を
惜み涙を流して者多かりたり

清水冠者洛令京鎌倉平定條

鎌倉の木曾義仲亡滅洛中評溢不及一由京師より告来る依て頼朝公
欣悦あり引續て平家を追討せられたるを範頼義経令せしむ茲小彼木曾
殿の嫡子清水冠者義高八人質として鎌倉の在る鎌倉殿の嫡女大姫君
と婚姻あり妹背の同睦はた更膠漆の如く大姫君婦徳を盡して義高より
仕へ花の朝月夕夕も纏をほろり九十九髪のみ末までと契りて小不意
木曾氏朝敵の名を呼ぶ京鎌倉鉾楯の色を顕し冠者の歎はくは
かり大姫君も深く心を痛むとも天下の大変をれを奈何ともせんをなく只雀
か囀る八幡宮祈誓をうけ西家和平の祈り亦他妻もなかりたりとも其甲斐

かく東軍上洛し木曾方敗亡して義仲遂に討まひしより思えたる冠者も
姫君も沖漕船の楫を失ひ園路行人の燈を消する心地にて錦帳の内小伏轉
び紅涙小袖を絞りておひきかき義高大姫小對ひ仰る我其初鎌倉小きり
しより如何なる辛苦小や遭ふんとおひきかき思の外佐殿の愛憐と蒙り
御身と潜老の契をこの一更義高が生涯の大慶何更う是小如かたされども
世の不肖小くばはるる後俊の所為わく又義仲朝敵となり陣波せり上我其
類業をれし千小の助る道有ゆきと較正小縲紲の辱を受て刑せられんは
深く自殺して九泉の父の迹を慕ふ人あはし御身此後如何なる人小嫁あふも
折節の香華の供養を憑に進まんとせられん大君よくと泣伏せしむ
情なくも曰このまの唐國の書小忠臣二人の君小事と列女二人の夫小見
かどとうりし名父母の許を得て君小見なかりたり現世の中ハハむさくも也
後ろ世の末まで也翼を比へ枝を連んとことを誓ひなかりたり君小見なかりたり世



清水冠者
最期
図

小右もつがごとく合し侍らむ。君亡人の數ふらんと思さむ。妾も同じ道ふと曰
 まで。他人も嫁よと、難面も只ひくさるゝか。掻口説は、死に敷たゆふと。冠者も流石
 振捨る。一日二日と自殺の期を延し、心の中あぬ日を送る。大姫君、如何も仕
 て義高殿を助ぐんと。伊豆の局といふ女、其手段を需む。小局も、我君の木
 曾殿を伐ゆ。院宜の上を、私の御趣意、小あまを、然れども冠者、御
 更は、より御猶子と定め、おひと更なれむ。今更御答も侍らば、名を失ひ
 たり。おまの義いふ。叶ぬ道も、者も猶御免なくむ。人おれを落し進ま
 侍らば、さのさ深く御心を困め、おいと忠告して、中々おと。姫君、是成願
 ふ。且暮神佛、祈り冠者、無更を願ふ。然るも、管中、小、評議有
 て、清水の冠者、正し、朝敵、義仲の子、れ、難ひ置ん。と、天朝の恐あ、依
 て、不使な、首を刎、おと、仰出されぬ。是と鎌倉殿、生貨疑念、深人か
 きた。後年、小至り、義孝、父の仇を報んと、隠謀を企つ。おと、おあ、と、慮

なから、面、朝廷、の、憚、と言出され、さかり、大小、名、の、輩、も、現、不、朝、敵、木、曾、殿
 の、子、息、か、何、と、練、人、銅、の、介、の、只、脚、錠、並、る、を、ゆ、と、言、と、と、茲、お、於、て、鎌、倉
 殿、堀、添、次、親、舎、成、召、ま、て、清、水、冠、者、を、殊、と、た、と、成、命、せ、ら、る、親、舎、も、大
 姫、君、の、婚、者、と、冠、者、を、亡、人、更、送、惑、お、ま、り、か、ら、る、王、命、せ、ら、る、と、小、道、を、
 畏、て、領、掌、し、て、退、出、し、り、此、義、早、く、姫、君、の、方、へ、歩、へ、れ、む。大、い、小、孫、丸、惑、お、お、ひ
 局、を、招、て、奈、何、せ、ん、と、歩、敷、お、局、中、々、ハ、吾、君、と、仰、出、され、上、日、本、の、中、ハ、疎
 高、麗、唐、山、へ、落、し、進、む、と、も、懸、せ、お、入、る、お、あ、を、れ、も、且、先、何、國、へ、お、入、
 進、せ、と、御、姿、と、隠、し、其、間、小、君、を、中、看、り、御、助、命、成、願、ひ、侍、ら、る、入、間、川、の
 辺、り、ふ、お、妾、う、所、縁、の、者、の、い、お、某、が、方、へ、と、と、中、小、り、の、姫、君、此、ハ、心、を、安、ん、
 ぬ、お、お、御、目、が、程、も、冠、者、小、別、離、人、更、を、悲、む、涙、お、袂、を、絞、り、お、お、局、種、々、
 練、厲、清、水、冠、者、小、云、の、首、を、告、れ、冠、者、面、の、色、を、正、し、て、中、々、様、
 我先、お、の、く、と、く、中、も、懸、る、き、身、か、ら、ざ、れ、ぬ、潔、く、自、害、せ、ん、と、木、意、お、

苟も義仲が子とて下賤匹夫とて逃隠を遂ふ名をかた者小見頭
されて縲維の事かた人恥辱の上う人まかす下とて腰刀小手成掛らる
を姫君局海持中忙しく遊下らる是ハ心短死御行迹々女時影を隠し
つ。御堂政子の方小願ひ御命を助進らせし。姫君の御悲歎を推量り
て曲て死を止す落す存せんと種々死口鏡は練多小冠者由大姫の歎と
察す。且局海野が忠義乃練言小感。遊下らる命とハ知ず。遂小其刃
小順ハ大姫小別離の情を噴比翼の伎を引多夜中小館を忍び出向ら女
を懐中し心まりる青侍人具して武藏國間川の方へ落らる。大姫を
尺ぬ余波ふる死昏まハ衣少被て泣伏せ局さ多く練やま。海畔小二郎
冠者小形容の似多我幸ハ帳内小入らめて平日うと。雙六うち笛吹せを
して冠者の其俵在休小とてか。を知人小か。堀を次ハか。小
更ともあら。義高乃射人として姫君の御方。森と嚴命の首を中。小

伊豆の司立出て為二対ハ冠者三日をり前の夜何國ともなく出行るハ
が其俵飯りむと。姫君乃御悲愁大く。方小人を多て尋た
とも今ふちれい。滅一。堀大ハ驚た地飯りて斯と。止
それ。鎌倉殿甚。怒。卿小。命。手。延。取。余言
語。断。曲。更。急。尋。出。首。次。列。以。外。荒。々。仰。多。小。之。膝
次。大。小。恐。入。方。小。手。配。冠。者。の。行。迹。を。尋。多。姫。君。を。伊。豆。の。向。と
以。て。御。堂。政。子。の。方。冠。者。助。命。の。更。を。歎。願。ひ。小。も。政。子。の。方。如。何。な。小
意。小。や。面。小。許。許。の。色。を。刀。せ。か。曾。て。鎌。倉。殿。乃。内。御。と。か。り。り。堀。を。次
ハ我身乃浮沈と心然焦燥即堂を草草たりとら搜さるる遂小入回川の
小と皮出。躬行向ひて其家小到。義高小面會。嚴命の趣を述。冠
者少も。心静小押肌。短刀拔。りて。雪。より。白。肌。小。突。立。一。文
字。小。搔。切。む。堀。う。郎。堂。傾。て。背。回。り。終。小。首。射。落。り。親。家。泪。か。り

首成推考(一)之飯(二)王(三)宮中(四)付候(五)一実檢(六)小備(七)之(八)鎌倉(九)殿漸(一〇)怒と
 宥(一一)られ(一二)首成(一三)昌長(一四)高院(一五)へ(一六)埋葬(一七)させ(一八)たり。大姫(一九)此(二〇)更(二一)を(二二)申(二三)み(二四)し(二五)天(二六)下(二七)想(二八)と
 地(二九)不(三〇)歎(三一)れ(三二)朝(三三)夕(三四)の(三五)物(三六)進(三七)み(三八)と(三九)遂(四〇)小(四一)重(四二)た(四三)病(四四)の(四五)床(四六)不(四七)卧(四八)み(四九)し(五〇)れ(五一)六(五二)頼(五三)朝(五四)公(五五)も
 政(五六)子(五七)の(五八)方(五九)も(六〇)大(六一)小(六二)な(六三)ら(六四)る(六五)を(六六)申(六七)み(六八)し(六九)普(七〇)く(七一)良(七二)医(七三)を(七四)召(七五)寄(七六)て(七七)姫(七八)の(七九)治(八〇)療(八一)を(八二)承(八三)け(八四)り(八五)
 々(八六)ま(八七)じ(八八)も(八九)露(九〇)許(九一)り(九二)敷(九三)き(九四)り(九五)終(九六)小(九七)曆(九八)元(九九)年(一〇〇)四(一〇一)月(一〇二)其(一〇三)日(一〇四)小(一〇五)冠(一〇六)者(一〇七)の(一〇八)妻(一〇九)を(一一〇)思(一一一)は(一一二)け(一一三)り(一一四)
 亡(一一五)入(一一六)り(一一七)敷(一一八)小(一一九)入(一二〇)む(一二一)ひ(一二二)を(一二三)痛(一二四)み(一二五)し(一二六)れ(一二七)御(一二八)母(一二九)の(一三〇)歎(一三一)れ(一三二)大(一三三)方(一三四)を(一三五)と(一三六)され(一三七)し(一三八)も(一三九)及(一四〇)ら(一四一)ぬ(一四二)道(一四三)を(一四四)承(一四五)け(一四六)り(一四七)
 傷(一四八)小(一四九)葬(一五〇)られ(一五一)り(一五二)斯(一五三)て(一五四)木(一五五)曾(一五六)の(一五七)一(一五八)統(一五九)亡(一六〇)滅(一六一)し(一六二)世(一六三)上(一六四)の(一六五)動(一六六)乱(一六七)皆(一六八)く(一六九)鎮(一七〇)り(一七一)京(一七二)鎌(一七三)倉(一七四)の(一七五)人(一七六)民(一七七)稍(一七八)業(一七九)成(一八〇)樂(一八一)む(一八二)世(一八三)と(一八四)なり(一八五)と(一八六)芽(一八七)出(一八八)り(一八九)た(一九〇)

木曾義仲勲切因會後篇卷之五大尾

和漢
 西洋
 書籍賣捌處

群玉堂河内屋
 岡田茂兵衛

大阪心齋橋博勞町角

